



議会だより

● 平成二十二年第四回定例会

● もくじ

審議された議案と結果……………	P 2
一般質問……………	P 4
決算特別委員会質疑要旨……………	P 5
自律計画調査特別委員会 所管事務調査中間報告……………	P 12

(表紙写真 新年初議会)

第 137 号

平成23年 2 月

発行／喜茂別町議会 編集／喜茂別町議会
議会広報編集委員会



平成22年第四回定例議会

審議された議案と結果

第四回定例会は、12月15日から16日までの2日間の会期で行われ、冒頭、町長より、今年度の農産物の生育及び作況、医療費の現状と対策、二七コ周辺地域産業活性化協議会に係る経過、特別老人ホームなどの企業誘致、まちづくり交付金事業の用地買収にかかる損害賠償訴訟など、5件について行政報告があり、続いて、館内議員による一般質問が行われました。

議案の審議については、決算特別委員会（越後耕司委員長）で審査された、平成21年度各会計の決算が認定されたほか、後志南部地区地域資源循環管理施設の指定管理者の指定、羊蹄山ろく消防組合及び羊蹄山麓環境衛生組合規約の変更、補正予算案など、議案8件と議員提案による、町議会議員の定数を定める条例改正など、発議案3件、意見案1件が審議され、いずれの案件も原案どおり可決されました。

（町議会議員の定数を定める条例が改正されたことにより、次の町議会議員選挙の定数は、1名減の9名となります。）

認定第1号	平成21年度喜茂別町一般会計歳入歳出決算認定について
認定第2号	平成21年度喜茂別町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
認定第3号	平成21年度喜茂別町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第4号	平成21年度喜茂別町老人保健特別会計歳入歳出決算認定について
認定第5号	平成21年度喜茂別町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

認定第6号

平成21年度喜茂別町簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算認定について

平成21年度喜茂別町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

（認定第1号から認定第7号までの各会計の決算認定については、認定されました。）

議案第1号

後志南部地区地域資源循環管理施設（土地改良資材製造施設）の指定管理者の指定について

本施設は、農業生産者が排出する農業生産廃棄物に含まれる有用有機物の適正な処理と有効活用を図るために設置された施設で、施設を管理する指定管理者の契約期間が、平成23年1月31日をもって満了となるため、議会の議決を求めるものです。

原案可決

議案第2号

羊蹄山ろく消防組合規約の変更について

改正の主な目的は、組合議会の構成の見直しと副管理者の選任方法の改正等で、これまで組合議会の構成については、各構成町村から選出された議員2名の内、1名は関係町村長としていたものを関係町村議会議員の中から2名の選出とするものです。

また、これまで副管理者の選任方法は、議会の同意選任としていたものを、管理者の属する町村の副町村長を充てるに改正するため、規約の変更をするものです。

原案可決

議案
第3号

羊蹄山麓環境衛生組合規約の変更について
議案第2号と同様の理由により、規約の変更をするものです。
原案可決

議案
第8号

平成22年度喜茂別町公共下水道事業特別会計補正予算
(第3回)
消費税確定による減額と不用額など93万6千円を減額し、予算総額は1億3千7百74万9千円となります。
原案可決

議案
第4号

平成22年度喜茂別町一般会計補正予算(第10回)

普通交付税の追加交付等による財政調整基金積立金5千2百43万8千円、公営住宅建設事業委託費3百89万6千円、障害者福祉給付金等で6千6百59万7千円の増額と、事業及び契約金額確定等による3千2百16万8千円の減額により、3千4百42万9千円を追加し、予算総額は23億6千6百17万7千円となります。
原案可決

議案
第1号

喜茂別町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について
喜茂別町議会の議員定数を、次の一般選挙から、10名から1名減とし、9名とするため、条例を改正するものです。
原案可決

議案
第5号

平成22年度喜茂別町国民健康保険特別会計補正予算(第1回)

国保のシステム改修費1百15万5千円、平成21年度後志広域連合負担金1百76万円、国民健康保険基金積立金7百95万7千円を追加し、予算総額は9千45万円となります。
原案可決

議案
第2号

喜茂別町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について
条例中、住民福祉課及び税務課を住民課に改めるため、条例を改正するものです。
原案可決

議案
第6号

平成22年度喜茂別町介護サービス事業特別会計補正予算(第3回)

臨時職員の賃金1百98万円を減額し、予算総額は4千7百13万4千円となります。
原案可決

議案
第3号

喜茂別町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について
規則の文言の一部を改めるため、規則を改正するものです。
原案可決

議案
第7号

平成22年度喜茂別町簡易水道事業等特別会計補正予算(第5回)

消費税確定に伴う増額と不用額の減額により、9万8千円を減額し、予算総額は5千9百85万8円となります。
原案可決

意見案
第1号

B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書

提出者 山下秀喜議員

賛成者 日下博文議員

富田泰光議員
原案可決

一般質問



館内 榮議員

有害鳥獣の駆除について

今年度、有害鳥獣として駆除・捕獲された、アライグマ、エゾシカ、カラスの地区別捕獲頭数について、特に、エゾシカの捕獲頭数は、昨年より増えていると思いますが、実績数はどれくらいになっているのか。

新聞に、旭川の農家が、エゾシカの被害を、農家が結束して罠部会を作り、罠猟の免許を取得し自衛という記事が載っておりましたが、本町もそのようなことをやってはどうか。

町広報12月号のお知らせ欄に、狩猟免許の関係が出ておりましたが、町が講習会を実施し、農業者に狩猟免許を取得させ、自衛させる考えはありませんか。

農業振興について

1点目として、今年度、実施した国営農地整備の調査の進捗状況はどうなっているのか。

また、参加戸数、受益面積、希望工種等、国営の事業基準に照らして、事業の実施は可能なのか伺います。

2点目として、全道の市町村の農家の入り口に、〇〇農場など、いろいろな看板が見られますが、本町の農家ではあまり見られません。こうした特色ある看板の設置は、消費者への安全、安心の発信と農村景観の一部になると思いますので、町が先に立ち、設置の推進を図る考えについて伺います。

3点目として、今年度、実施したホワイトアスパラの遮光シート試験結果と次年度の遮光シート作付面積に対する補助の考えについて伺います。

4点目として、昨年と今年にわたる、農作物の生育期の天候変動は、農業者にとって大変な苦勞だったと思います。今後、農業者が営農体系を考え、野菜等へのハウス栽培の希望がある場合、町として、施設への補助をする考えについて伺います。

菅原町長

最初に、有害鳥獣の駆除の關係ですが、今年度の捕獲状況については、アライグマの総数が22頭と、前年対比で4頭の減少となっております。

地区別では、御園6頭、知来別5頭、鈴川3頭、双葉、伏見、栄留産が、それぞれ2頭となっております。

エゾシカの総数は、16頭と、前年対比で9頭の増加となっております。

地区別では、福丘5頭、栄4頭、双葉3頭、福島2頭、御園、知来別が、それぞれ1頭となっております。

カラスの総数は、集計で5羽と、前年対比で9羽の減少となっております。

エゾシカの捕獲頭数は、昨年の2倍となっており、農作物の食害による被害も深刻な状況となっております。

駆除の中心となっている猟友会も、高齢化による会員の減少と、資格取得にあたっての経済的、時間的制約等があり、新たな会員の確保が課題となっております。状況にあります。

町としては、猟友会の方々と

意見交換を行い、担い手の育成の方法や具体的な対策を進めてまいりたいと考えております。

また、農業者の狩猟免許取得については、12月中旬に、鳥獣被害防止対策協議会を設置し、前向きに検討してまいりたいと考えております。

次に、農業振興に関する1点目の国営農地整備の關係で、今年度、小樽開発建設部において土地利用状況等の本人要望の調査を行いました。これは、地域農業のあり方に対する初期段階の基礎的調査であり、2月までに地域課題等の取りまとめを行い、町及び関係機関へ報告されるもので、来年度、さらに国の具体的な基準に照らし合わせて、事業意向にかかる詳細調査が行われ、国の採択基準となっている面積の4百ヘクタール以上の事業量が確保されるかが明らかとされるところであり、現時点で、採択基準を満たし、事業実施が可能かどうかの判断については、今後の意向調査の結果次第と認識しておりますので、農業者の方の意向を踏まえ、事業の推進について要望してまいりたいと考えております。

2点目の看板設置の關係については、潤いのある農村景観の

創出と生産者の見える農業体制の推進を図るため、特色ある看板の設置は重要な取り組みと認識しており、今後、農業者や関係機関との意見交換の中で、必要な取り組みについて検討したいと考えております。

3点目のホワイトアスパラ栽培における遮光シートの関係は、今年度、4軒の農家による試験栽培を実施し、地温の上昇による生育の促進や収穫期間の短縮による、さび病の予防や労働時間の短縮などの効果が見られ、良い結果を得ております。

これらの結果を踏まえ、来年度は、関係機関との協議により一層の推進を図ってまいりたいと考えております。

4点目のハウス栽培に対する補助のあり方ですが、本町としては、平成7年度からの3年間で、振興花卉・野菜奨励事業として、平成10年度からの2年間で、高収益作物生産拡大奨励事業として、ハウス設置資金の2分の1を補助する奨励事業を行い、野菜等のハウス栽培の振興を図ってきたところであります。

この事業により、トマト、メロン等の生産については、農業者の生産努力もあり、その品質については、高い評価を得てい

るところであり、事業実施の結果があったと考えております。

議員の指摘のとおり、農業者の方々には、近年の天候不順により、今までにない苦労の中で生産活動を強い、厳しい農業経営に直面されていると認識いたしております。

これらの対応には、ハウス栽培も重要な選択肢ではありませんが、新たな作物の振興を始めとした新規作物チャレンジ事業など、町としても新たな展望を開く取り組みと併せ、推進してまいりたいと考えております。



成人式（戦争体験講話）

決算特別委員会（一般会計）質疑要旨

菊地委員

最初に、財政健全化のための収入の確保について伺います。

平成21年度決算における、本町の財政状況は、国が実施した各種の経済対策の効果で、歳入が好調に推移したことから、本決算における財政調整基金の積立額を加えた、実質単年度収支は黒字となっております。

しかし、本町は、今後における人口の減少等により、歳入の主要な部分を占める地方交付税の減少が予想され、財政健全化を図るための取組みを、積極的に進める必要があると思います。

私は、財政の健全化を進める上で、町の主要財源である、町税や使用料などの歳入確保は極めて重要との考え方から、昨年の決算特別委員会の中で、公営住宅使用料の未納分の徴収関係についての指摘をしておりますが、残念ながら、今日まで改善の兆しが見られず、今回の決算意見書でも、昨年と同様の厳しい指摘がされております。

そこで、監査委員から、度重なる指摘を受け、町長は、町政を担う最高責任者として、問題解決のため、今日まで、どのような対応をしてきたのか。また、今後、どのような対応を考えているのか伺います。

菅原町長

菊地委員の指摘のとおりで、数字的には、成果が上がっていないと思っております。

原因は、これまで説明しておりますが、基本的に多くの方には、きちっと納めていただいておりますので、この数字が、各種の徴収に関するものを納めている方々に適合するということではないと思っております。

いずれにしても、納められない方については、いろいろな調査をした結果、経済的なものが中心のように見えますが、中には、大変、悪質な方もおります。後志広域連合の方にもお願いし、これまで、様々な努力をしてきましたが、なかなか成果が上がらないということを踏まえ

て、今年度から、弁護士を通じていろいろやっていくべく調整をしているところでもあります。

税関係では、差し押さえ等も含め、法的な手段に出ることを庁内では確認済みであり、水道の使用料等についても、止めるところまでいかなければなりませんし、公営住宅の使用料の未納が多いところは、退去を願うことで検討しております。

なお、使用料の未納者については、裁判等を想定した形で進めております。

菊地委員

次に、まちづくり交付金事業における情報発信プラザの関係について伺います。

昨年の12月に、市街地活性化調査特別委員会で郷の駅のトイレ、情報発信プラザの現地調査を実施しておりますが、その折私が疑問に思ったのは、旧喜茂別農協所有の石造り倉庫を、町の歴史的建造物として再度組み立て、郷の駅のシンボルにするという、当初、町が説明していたものとは全く違う建物になっていたということがあります。この件に関しては、平成18年9月開催の定例議会に、旧喜茂

別農協が所有する、石造り倉庫の保存、解体にかかる費用を計上した補正予算が提案されておりますが、その提案説明の内容は、市街地再形成のためのシンボリック建物として、旧喜茂別農協がアスパラガスを保管するために昭和13年に建設した、石造り倉庫を活用するというものであったと思います。

当時の議会の議事録を見たところ、郷の駅エリアの整備関係の審議の中で、いろいろな議論が出ており、特に、石造り倉庫の関係については、厳しい指摘がされております。

当時、町長は、喜茂別町にはシンボルとなる歴史的な建物がないので、そういう建物を大事にしていきたいとの想いがあると答弁されております。

また、平成18年10月18日の北海道新聞にも、昭和初期の石造り倉庫をアスパラ発祥の地の象徴として、郷の駅のシンボルとして生まれ変わらせる計画との記事が載っております。

これらの経過を見ても、多くの町民は、解体された旧喜茂別農協の石造り倉庫が、本町の歴史的建造物として、再度組み立てられ、小樽運河の倉庫群のように、郷の駅の中に、町のシン

ボルとして残されると思ったと推測できるわけです。

そこで、完成した郷の駅の情報発信プラザが、平成18年9月議会における、石造り倉庫の解体、保存費用が計上されたときの補正予算の提案説明や、町長の答弁内容と大きく違う建物になった理由について、町長に伺いたいと思います。



保育所おもちつき会

菅原町長

この喜茂別の歴史を考えると、いろいろな答弁したことに何ら変わりはありません。

本町の先人に、何とか報いるということが、歴史を大事にしていくことが、喜茂別町民の素養というものを高めていくこと

につながるのと想いであり、今後とも、文化、歴史というものを再構築しながら行政を進めていきたいと思っております。

小樽運河の倉庫群のような建物にするという認識は持つておりませんでしたが、いろいろな誤解を与えたという点では、大変申し訳ないと思っております。

いずれにしても、まだ石の残りもありますので、公園等で使う予定で進めております。

大変、由緒ある石造り倉庫であり、喜茂別の農家の方々が、苦労して石を札幌から運んできて、半分は割り、面を作り、当時は無かった瓦屋根を付けるという、本当に、どん底の中にも希望を見出そうと進めた事業との認識を持つており、喜茂別の大火の時に、大きな壁となり、火の広がりがなかったということも聞いており、そういう点で、今後、残りの石を少しでも使っていければと考えております。

菊地委員

私の質問の意図は、当初、町民が思っていたものとは違うものが出来たということ、当時から、石造り倉庫は、老朽化が進んでおり、解体後の再度の組

み立ては難しいという話は関係者から聞いております。

しかし、郷の駅が、本年4月に全面オープンということでも多くの町民の前に披露され、今後の事業の成功を願うことを考えれば、私は、この件で延々と議論をし、郷の駅の事業に水を差すつもりは毛頭ありません。

ただ、石造り倉庫が元の形で建築できない状況になった時の経過というものが議会の中で一度も説明されておりません。

議会の調査においても、石を薄く削ったタイル状のものを貼りつけた建物が出て来ているというところで、町民の中にも納得しない方もいるわけです。

私が、ここで強く指摘したいのは、町が、当初、計画したものが、途中で大きく変わる場合には、少なくとも議会に、その経過と理由というものをきっちり説明することが重要なことではないかと思っておりますので、再度、答弁を求めます。

細田総務課長

前段に、当時、担当の私の方から説明させていただきました。

歴史的建造物の活用事業として、まちづくり交付金事業のメ

ニューの中に盛り込んだ経過があり、当初計画においても、歴史的建造物の保存という形で申請をしており、内容は、歴史的建造物を活用した事業を実施するというところで、当初から、建物を、そのまま再構築するという説明はしておりませんし、市街地活性化委員会において、石の活用方法について、皆様方に図面を示し説明しており、それに基づいて、今回、計画を進めさせていただいたという認識であります。

菊地委員

担当課長の方から説明がありました。平成18年2月にまちづくり検討委員会が出した資料に、当時の姿の石造り倉庫の絵が載っており、当初は、石づくり倉庫を情報発信プラザやトイレとして、そのまま活用したいということだったと思います。

石造り倉庫の関係は、まちづくり交付金事業がスタートする前のことで、当時の議会の議事録をみますと、過疎計画の変更や補正予算審議の中で、まちづくり交付金事業の計画が決まっていなかった段階での解体、保存の予算計上に対する厳しい指摘が

されており、当時の議員の中で疑問を持つていた方がいたということだと思えます。

本件を通して、私が強く指摘したいのは、石造り倉庫の関係だけではなく、町が行う計画等の変更が出てきた場合には、議会の中で説明することが重要だと思っておりますので、再度、町長の答弁を求めます。

菅原町長

計画に関しては、過去にもいろいろと経験しておりますので軽々に、こうなりますということは申し上げていないつもりですが、ただ、今の段階で、説明不足ということを指摘されたことを強く受け止め、今後は、できるだけ早い段階で、説明できるように努力をしてまいりたいと思っております。

山下委員

新規作物導入チャレンジ事業については、新たな高収益作物を確立するために始まった事業ですが、栽培しているにんじくの名前と特徴、事業の成果について伺います。

また、高収益につながる点に

において、販路というのが重要な課題になると思いますが、このへんの考えについて伺います。

桜井産業振興課長

新規作物導入チャレンジ事業として、農業体系に組み込む可能性がある作物として、にんじくの栽培ということ、20年度に視察研修を行い、21年度に栽培技術の習得を目指し、現在はホワイト6片という品種のものを作っており、導入事業の成果としては、現在、3軒の農家が取り組んでおります。

販路等については、現在、瓶詰加工の試作を行っており、将来は郷の駅等を販路として活用できればと考えております。

菅原町長

このにんじくは、北海道周辺から出たものを青森で栽培し有名になったもので、通常球の片鱗が8片から10片あるものを6片にし、1片を大きくするもので、今、有名になり高値が付いている状況で、その種を導入し栽培したいということです。

今年の経過を見ると、天候の関係で乾燥がうまくいかず、生

産を軌道に乗せ銘柄にするには、もう少し時間がかかると思いますが、この喜茂別の地域においては、気温の高低差が課題でありますので、今後、農業改良普及センター等の指導を仰ぎながら進めたいと思っております。

山下委員

次に、第2期喜茂別町障害福祉計画の関係で、この計画の実施や進捗状況については、新しくできた喜茂別町地域自立支援協議会に報告し、意見を求め、計画の具体化に向けた協議を行うと思いますが、21年度はどのような協議が行われ、計画の見直しはあったのか伺います。

小野住民課長

障害福祉計画の進捗状況ですが、現在、平成21年度から第2期計画の実施機関中であり、平成23年度末のサービス見込み量を目録として定めたもので、内容は、福祉施設から地域生活への移行、一般就労への移行など国や北海道の目指す方向に沿った計画であると同時に、国の福祉政策との関係では、平成24年度の新体系サービスへの移行

を踏まえた計画でもあります。

この部分は、実際にサービスを提供する事業者の経営方針に影響されるところで、報酬単価や職員配置の問題、地元自治体の福祉施策など、総合的に判断し、経営方針を定めるものと思われませんが、町は、本計画の理念である、地域での自立を支援するという観点から、計画的な取り組みや事業者との協議を進めたいと考えております。



喜小児童とデイサービスセンター交流

山下委員

次に、障害者の健康づくりの関係で、健常者の健康づくりの施策というのは見えますが、障害者の健康づくりというものはなかなか見えてきません。

そこで、21年度における障害者の健康づくりのため、どのような取り組みをされたのか。また、次年度以降の取り組みについて伺います。

小野住民課長

現在、障害者という範囲の中では、検診レベルのことは行っておりますが、積極的な健康づくりという面において、これだという特徴あるものは行っていないのが実態であり、平成23年度については、今後、検討させていただきます。

山下委員

次に、公営住宅使用料の関係で、収入未済額が増え続けておりますが、21年度の出納閉鎖後から現在まで、どれくらいの収納があったのか伺います。

林建設課長

本年9月末現在の合計で、63万1千7百円となっております。

日下委員

最初に、決算の説明資料の実

質公債費比率の説明で、前年度と比較し、1.8パーセント公債費比率が下がったという記述がありますが、まちづくり交付金事業を始め起債は今後もありますし、全てカウントされない他の大きな起債もある中で、現時点で、実質公債費比率が下がっており、それらの影響を見たとき、単純に、今後、減り続けるという予測で良いのか伺います。

内村副町長

実質公債費比率は、21年度は前年度と比較し、1.8ポイント程度減少し、健全化に近づいております、財政的に心配されるような状態ではありません。

ただ、今後、様々な部分で起債の償還等が終わるものもありますので、起債の額自体は減っていくと推計しております。

また、この間、様々な事業を行っておりますが、それらについても、極力財源の裏打ちのある過疎債等の起債の発行を行っており、心配される状況にはならないと推計しております。

日下委員

次に、公共施設の長寿命化の

関係でデータベース化を図ったということですが、データベース化により、長寿化も含め修繕や建て替え等の計画が必要となってくると思います。

そこで、今時点で、どのような実態把握をしているのか。

また、今後、その結果を受けて、財政に与える影響というものをどのように見込んでいるのか伺います。

内村副町長

この関係は、公共施設の長寿化の対策と、今後、進めなければならぬ公会計の関係における資産評価といった部分のデータの調査で、公共施設の関係については、築年数、外観の状況、修理の必要性等について、各施設の状態をデータベース化し、それらを踏まえ、限られた財源の下で、修繕関係の年度別計画を立てる考えで、今後の総合計画に反映させるバックグランドにもなりますし、公共施設整備の基礎データとしても活用できると考えております。

日下委員

次に、地域医療の確保の関係

で、平成21年度も、喜茂別厚生クリニックと俱知安厚生病院の運営費に対する助成を行っておりますが、新聞報道や町長の行政報告によると、俱知安厚生病院に対する新たな負担が求められている状況だと思えます。

私は、俱知安厚生病院の運営費負担は21年度限りと受け止めていたわけですが、ここ2年続けての負担について、考える時期にきていると思えます。

そこで、他の関係町村とのからみもありますが、町長は、現時点で、どのような考えを持っているのか伺います。

菅原町長

日下委員のご指摘の件は、予算や決算を出す段階で大きな問題となることは、本町だけでなく関係する町村全てにおいて言えることだと思えます。

昨年、対象となった特別交付税も非常に微妙なところで、不安定な財源を当てにしているのは課題が残りますが、医師不足により、病院の医者がどんどん減る中で、今年の赤字も昨年を上回る状況と伺っており、まだ正式に来ておりませんが、厚生連から、昨年同様の赤字補てん

が求められてくるということが進んでいる段階です。

本町にとって、俱知安厚生病院の赤字が解消されず、撤退ということになれば、喜茂別厚生クリニックも、その影響を受けることになりそうですので、今のところ状況を判断するための情報収集に努めているところです。

日下委員

次に、商工の関係で、平成21年度に、商工業の活性化に寄与する施策として、町の助成により5百万円分のプレミアム商品券の発行を行っております。

この取り組みは、確かに商店の売り上げ増に結びつく事業ではあるとは思いますが、本当にこれが永続的な商工業の振興に役立ち、消費喚起につながったかどうかの検証をされているのか伺います。

桜井産業振興課長

プレミアム商品券の総額5百万円の内、町が百万円の助成をしております。

販売先の詳細については、把握しておりませんが、世帯数では約百30世帯で、使用された業

種の割合としては、小売業が94パーセント、サービス業が2パーセント、飲食業が4パーセントとなっております。

内村副町長

本町の商店は、小規模で店舗数も限られたものになっている状況の中で、プレミアム商品券だけで地域の商工業の発展につながるものではないと認識しており、商工会とは地域の発展のあり方について議論をし、その中で、より効果的な対策を取れるものがあれば、町も支援をしていく考えであります。

また、町との意見交換の中で、商工会の方も地域の商工業の発展を第一に、様々な取り組みを進めていく考えを示しており、ですので、十分な検証を行いながら、できる限りの支援を行っていきたいと考えております。

日下委員

次に、決算状況について、実質公債費比率や将来負担率は、国の想定以下であり、決して楽とは言えないが、監査委員の意見も適正な予算執行であったとされております。

今、私が持っている全道の健全化判断比率の速報値や平成20年度の確報値と比較しますと、道内、どの町村も各比率が改善しており、これは政権交代後、小規模自治体に手厚くということ、減少していた交付税が、ここ2年位で増額交付された分、本町だけが特別良いということではなく、今後も国まかせの財政運営を強いられることから、本町としては、どのような見解を持って財政運営にあたる考えなのか伺います。

内村副町長

本町の財政構造は、交付税に委ねるところが大きく、後志管内との財政状況の比較では、実質公債費比率、将来負担率とも真ん中で、札幌市を除く全道平均で、10パーセント程度良いと言えると思います。

先日の新聞で、国の財政状況が厳しいことから、地方財政審議会で、交付税の見直し議論があることが報じられており、本町においても、交付税に依存した形だけではなく、何らかの形で自助努力をしていく必要があると考えております。

本町としても、札幌市との交

流を始め、様々な機会を捉え、町に人材を取り込むことや企業誘致等の推進を図る中で、町税の確保につながるものが重要と考えており、こうした取り組みの検討を進め、自主財源の確保に努めたいと思っております。

日下委員

次に、平成17年度から5年にわたる期間での、喜茂別町集中改革プランが立てられておりますが、このプランは、自治体経営の健全化の下に、町職員の人員配置や適正規模、給与体系などを検討の上予算化し、一定の成果を挙げて決算に結び付くことを構成するものだと思います。この中には、厳しい財政状況の中でも最小限の経費で最大の効果を上げる、給与等に反映させる評価制度の仕組みを構築するなど、数点の項目が謳われております。

このプランが、21年度までにきちつと機能していれば、決算に出てくる人件費等にも影響があったと思います。私たちは、未だに評価制度が構築されたとは伺っていないわけです。

そこで、町は、このプランにおける評価制度というものを検

討されているのか伺います。

内村副町長

委員ご指摘の、評価制度のあり方については、現在まで、きちつとした制度化は図られていない状況であり、現在、様々な観点から、協議、検討を進めているところで、23年度においてある程度の形を示せればと考えております。

菅原町長

この課題については、対組合の問題もありますが、私としては、今年度から管理職については、査定を行っていきたいと思っております。

ただ、公平な基準を作ることが必要であり、今後、全職員に波及していくことも想定されますので、先に、管理職にいろいろな課題を出し、進めていきたいと考えております。

また、国が、国家公務員対策に取り組むことが想定されますので、国の動きを見て、新たな対応や新たな認識が出てくるものと思っておりますが、職員的生活に直結することでもありませんので、慎重に進めていきたいと思っております。

新居委員

最近、ゴルフ場の利用者が減ってきており、ゴルフ場利用税の減少は、今後も続くと思いますが、先般の新聞報道で、喜茂別町のゴルフ場が中国資本に買われ、来年の秋口に、ゴルフ場としてやりたいということが載っております。

このへんの、町で知り得る情報があれば伺いたいと思います。

菅原町長

この関係は、新聞報道においては、投機的な意味もあるとの懸念はありますが、静観していきたいと思っております。

また、ゴルフ場利用税については、いろいろな戦略の違いから売り上げは随分落としている現状であり、経営についても、なかなか定着しないことを懸念しております。

新居委員

次に、固定資産税の不納欠損並びに未済額の中に、過去のゴルフ場所有者のセザールから続いている固定資産税の未納分が

含まれているのか。
また、仮に中国資本のものになった場合、過去の不納額というものが、新たな所有者に遡^{さかのぼ}って請求できるのか伺います。

内村副町長

固定資産税の関係は、税法上の関係から、差し支えない範囲での回答となりますが、この決算書の滞納額の中に含まれているものはあります。

また、変わった所有者が過去の滞納分を引き継いで支払うことにはなりませんので、あくまでも前の所有者に対して請求をしていくこととなります。

新居委員

次に、同僚議員が郷の駅に移設された農協の倉庫のことで質問しておりますが、質問を聞いて、郷の駅に農協の倉庫を移設する時の町長の答弁は、文化的な建物ということを非常に強調されておりましたので、私も同じ理解をしておりました。

倉庫の移設にあたっては、解体や保存に何百万もの多額の費用をかけております。

振り返って、現在の状況の建

物見たとき、費用対効果の問題で、これだけお金をかけて目指す効果があったのか、疑問に思うと同時に、もう少し然るべき方法でやった方が良かったのではないかと思っております。

そこで、結果的にこのへんをどう考えているのか伺います。

菅原町長

私は、やって良かったと思っております、町長になって、様々な遺産や観光戦略というものを考えた時、中山峠はありますが、それ以外に、さしたるものもなく、そういう点で、喜茂別にも遺産があることを念頭に置きながら、進めていけるバックボーンになると思っております。

確かに、全部が石造りの象徴的な建物にはならなかったかもしれないませんが、この精神というものは、他に波及させていきたいと思っております。

本町は、百30年ほど経っておりますが、過去の遺産を大事にしてきた経過はありません。

過日も、お墓の関係で質問がありました。今まで過去の方々や先祖に対する敬意というものを発揮できませんでした。

今少し、財政的に良くなれば、

そういうところにお金をかけ、喜茂別のバックボーンにしたいと思っております。



読書感想文コンクール表彰式

戸井委員

健康診断の受診者が年々減ってきている気がしますが、ここ2、3年の受診状況はどのようになっているのか。

また、検診の精度としてはどの程度のものか伺います。

藤井健康推進課長

健康診断の受診数は、21年度は、総計で2百75名、20年度が2百70名で、若干増え受診率は上がっておりますが、さらなる受診率の向上に向けて、30歳以

上を対象に電話による勧誘や5歳刻みで個別に案内を出すなどの方策をとっております。

また、健康診断で行う検診の精度は、悪くないとの評価を受けており、高い確率で病巣は見できると聞いております。

戸井委員

次に、教育部門で、21年度において、各学校に電子黒板が配置されたと思いますが、実際の教育指導面における利用状況と効果について伺います。

麻生教育長

電子黒板は、各学校に1台配置しておりますが、私が授業参観等で把握している限りでは、外国語活動の授業や参観日に積極的に使用しており、校長、教頭会議において十分活用するよう指導をしております。

これからも教育活動の効果がでるよう、積極的な利用について、各学校に指導したいと考えております。

戸井委員

次に、財政の関係で、本町の

財政調整基金が、交付税の順調なことであつて、5億円を超える形になり、以前より財政が幾分好転してきたと思います。

しかし、今の民主党政権の地方重視の政策によるところが大きく、自主財源は、僅かなパーセントしか占めていないことから、使い方次第で大きく変わる気がいたします。

そうした中で、町長から総合計画の話が出ておりますが、私は、21年度、22年度決算というものを頭において上で計画を立てるべきだと思つたので、町長の考えを伺います。

菅原町長

前段に財政状況の話がありましたが、今日まで、町民の皆様は勿論のこと、職員も含め、本当に努力をしていただいた結果だと思つております。

今後、小さな自治体がやっていく上で、自主財源確保は重要な課題でありますので、企業誘致というものを前提として考えていきたいと思つており、総合計画の中では、自主財源、雇用の確保が大きなテーマになってくると思つております。

戸井委員

次に、中山峠の民間委託の再契約の関係で、私は、付随する施設が年々古くなり、使用度が減っていることで、請けている企業から契約金額の見直しの話が出てくると思つますが、実のところはどうなのか伺います。

菅原町長

中山峠の運営については、時代の変化がある中で、高速道路の無料化などで人の流れが道東、道北の方に向かい、経営が厳しい状況に至り、この夏頃、文書により賃貸料の減額要請というものがありません。

いづれにしても、経営が厳しい状況から判断すると、今の契約でいくことは難しいと思つており、老朽化している施設に投資が必要であることから、簡単に減額ということにはならないと相手方には話しております。今、契約は2年くらい残しており、今後、更なる要請が来るのが予想され、その時には今が良いのか、指定管理が良いのか考えたいと思つております。

自律計画調査特別委員会所管事務調査中間報告書

委員長報告

委員長 日下博文

1 喜茂別町議会の議員定数と報酬について

本委員会では、他町村の資料等も精査の上、全委員より議員定数と議員報酬についての考え方を数回聴取した。

各委員による数回の議論を経て、各委員より、委員長において素案を示し、それにより議論を経て、委員会としての意見集約をすべきとの意見が出され、委員長として、次の素案を委員会に示し議論を行った。

○議員定数は、1名減の9名とする。

○議員報酬は、現状のままとする。

各委員からは、議員定数や議員報酬のあり方の議論とは、あくまでも個別の問題としながらも、議員定数を削減するにあたり、議会事務局の充実を望む意見や、議員定数及び議員報酬について、財政的な観点からの検討を全く否定するものではないが、本質的な議会の機能や役割について検証した上で議論すべきとの意見等が出され、各委員

2 本委員会における意見

本委員会に調査を委託されていた、喜茂別町議会の議員定数と議員報酬について、本委員会としては調査検討の結果、次のとおりとする。

○議員定数は、1名減の9名とする。

○議員報酬は、現状のままとする。

以上、本委員会の調査における意見として議長に報告する。



議会議場の様子